

中谷の南朝秘史④

― 藤宮の伝説 ―

中谷には近衛経忠公や万里小路(藤原)藤房の伝説が伝わっていますが、中谷以外でもこれに関連する伝説が残されています。

『作陽誌』(元禄四年(一六九一)刊行)に書かれた富・大の王子権現社の項には

「(前略)昔国司某王中谷に居る。是を藤宮と名付く。後遷りて此の村に居る。因りて王村と名付く。今は大村と言う。初め王西谷に遊獵し兼秀に到る。巖崖峻峻、馬足通ぜず。駕を回して還る。其の所を駒返と名づく。又旗堅山、劍妖森有り。俗説多く皆王の事跡の存する所なり。又嘗て法華山大圓寺を営み遂に中谷に薨す。其処を近衛田と名づく。往に大圓寺は王牌(位牌)有り。近火災に罹りて亡ぶ。村民祠を立てて崇め王子権現と為す(後略)」

とあり、現在の大の地名が中谷に住んでいた国司(国の長官)「藤宮」という人物に由来すること、王子権現(現在の神田神社)が、藤宮が造

営した中谷の大圓寺が火災に遭ったことから村民が祀ったものであるとされています。

また、「劍妖森」(大・町指定史跡)という神秘的な名前の地は、生活改善センターの敷地内にある「劍妖森之碑」の石碑の場所であったといい、藤宮がこの地に遊獵の際に楓の木に剣を掛けて休憩したことからの名がついたと言われ、実際に明治三十三年までは楓の太木があったそうです。「駒返り」(富西谷・町指定史跡)は、真庭市久世との町境にあり、藤宮が遊獵の際に馬が通れないくらい険しかったことから引き返した場所と言

われています。

さらに現在の神田神社の近くにかつて存在した大塚大明神は、国司藤宮の王子の墳墓を江戸時代後期の文政の頃発掘して祀ったものという伝説もあります。

富には経忠や藤房の名前は伝わっていませんが、両者とも姓は藤原氏で、南朝の年号をもつ中谷神社所蔵の鰐口(町指定工芸品)には「大願主 藤宮」と刻まれていることから、藤宮が中谷の貴人伝説と結びつけられていることがわかります。

実際は、王子権現は紀



剣妖森跡(大)



駒返り(富西谷)



中谷神社所蔵「藤宮」の鰐口

州三山の熊野王子権現を勧請したもののように、神田神社に伝わる棟札に書かれた年号も至徳四年(一三八七)という北朝の年号ですので、神社と中谷の南朝の貴族の伝説を結びつきは後世に作られたものと考えられます。

中谷の伝説が近隣の村にまで広がったのはどのような背景があったのでしょうか。富地域は古代から中世には皇室や京都の有力寺院の荘園でしたので、中央から役人らが派遣されたこともあったかもしれません。そうした出来事と中谷の伝説が混じってこのような伝説が作られていったのでしょうか。

参考資料:『鏡野町の文化財』

『富村の石造物』

『作陽誌』

『富村郷土史』

お問い合わせ先

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733